

地域貢献活動推進事業
第2回「光るU」企画

みんなおいでよ！
国際交流あそび場！
色々な国の方と遊ぼう！

8/24 (土)
13:00~14:30

会場：
みんなのき～すて～しょん
TeaM U



宇治市国際交流協会のご紹介により、宇治多文化クラブさんにお世話になって実現した国際交流イベントです。アットホームな楽しい雰囲気の中で世界各国の生活や遊びの文化を交流しましょう！世界各国への興味を広げたり国際的なお友達をつくらったりきっかけになればと願っています！

お申し込みはこちら



主催：宇治福祉課 協力：宇治市国際交流協会 お問い合わせ：0774-25-3715

みんなおいでよ。国際交流遊び場。

色々な国の方とあそぼう。

2024, 8, 24 (土)
うじ多文化クラブ
M・Nakanishi

暑さまっさかりの8月24日、京阪宇治駅近くの子ども食堂「みんなのき～すて～しょん TeaMU」で、外国の方と日本の子どもたちが、遊びや文化



のプレゼンテーションで交流を深めました。

この日の京都は、38度でした。この暑さの中、元気な子どもたちとその保護者の方が続々と子ども食堂へやって来ました。ヨーヨー遊びや地藏盆の子どもの遊びを楽しんだ後、この日のメニューはカレーうどん。何とこの日だけで、100食程も注文があったようです。来ていただいた方は、フーフーとさましながら、汗をかいておいしいカレーうどんに舌づつみをうっていました。

そして始まった外国の方々との交流イベント。

まず1番は、ネパールのビマル君。この日の為に用意してくれたネパールの帽子をかぶり、とてもカッコ良かったです。ネパールの国旗の意味やエベレスト、仏陀の写真を紹介し、地図で位置を確認。この辺り、用意周到でした。そしてネパールのお祭り「ダサイン」のプレゼンテーション。「しあわせに。という思いをこめて授かるティカは何でできているでしょう。貝ではありません。こめ・ヨーグルト・赤い色の粉です。」と答えるビマル君に、「へえ。」という声があがっていました。圧巻はダサインビンという竹で作る大きなブランコの紹介。「みんなの公園にもあるブランコですよ。竹は、しなるので折れません。」と、とても難しい日本語を覚えて説明してくれました。



次はベトナムのカインさんとスアンさん姉妹でした。カインさんは、ベトナムの大きなお祭り「テト」を。スアンさんは、ホイアンの「ランタン祭り」を紹介してくれました。勇気を出しての発表に会場の人々もしっかりと聞き入って下さっていました。お父さんのサンさんからは、ベトナムでは、大人も年上の人からお年玉をもらうこと。お母さんのジェンニからは、おせち料理のことも話して

いただき、家族皆さんでのすばらしいプレゼンテーションとなりました。会場からは、「ベトナムへ行ってみたい。」の声があがっていました。

その次は、韓国のスンナムさん。ビビンバという色々な具材の料理や、チマチョゴリの写真を見てから、お釈迦様やはすの花のことも説明して下さいました。自分の言葉での、とても丁寧なわかりやすい説明に、スンナムさんの知識の豊かさを感じる発表でした。韓国にも「ランタン祭り」があり、そのルーツは宗教の伝来と深く結びついていることがわかりました。



そして、イランのジャハリさん。ジャハリさんは、イランでは、絵画を描かれていたということで、そのペンネームも紹介して下さいました。さまざまな中間色が色とりどりに表現されている、とても素敵な色合いの優しい絵画でした。イランの歌も聞かせて下さいました。焚火を飛び越えるチャハールサンベ・スーリという火まつりはすごい迫力でした。この辺りで、中東からアジア圏への文化には、共通点があるということに気づかれた人がいました。仏教や文化の伝来してきたルーツの影響がおそらくあるのでしょうか。もっと、もっとジャハリさんの発表をお聞きしたかったです。

最後は、ベトナムのジェンニさんでした。ジェンニさんは、日本語が流暢で、その発表の内容も素晴らしく整理されていて、とてもよくわかりました。会場の皆さんは、ジェンニさんのプレゼンテーションに、しばし聞き入っておられました。お子様の小学校の写真等も出てきて、日本ととてもよく似ているところや、違うところがはっきりとわかりました。ベトナムは1年中暑いので、プール学習は年間通してあるそうですよ。



スリランカからもこ

この日、ご家族5人の参加がありました。スリランカのカルムさんご家族は、4月に日本に来られてまだ4か月ですが、9月からは、宇治市国際交流協会の日本語クラスで勉強される予定だそうです。沢山の方々の発表を熱心に聞いて下さり、これからの学習意欲へとつながったようで良かったです。

一人ひとりのプレゼンテーションを振り返ってみると、本番での発表がすばらしかったです。一人ひとりが聞き手を目の前にして、何とか今できる全ての力を駆使して、母国のことを伝えようとして

話して下さいている思いが、言葉や態度で表現されていました。そして、それをしっかりと聞き手の皆さんが聞いて下さり、心から褒め讃えて下さっていました。皆の前で話すということは、簡単なことではありません。そのとても大きなことを、楽しく朗らかにやりきって下さった皆さんと、それを支えて下さった聞き手の皆さんはすばらしいと思いました。発表者は、このような経験を積むことにより、必ず成長されるはずです。日本の子どもたちやお母さん、お父さん方も話を聞いて、遠い外国が少し身近に感じられるようになったのではないかと思います。

100食を提供していただいた子ども食堂のスタッフの皆さん、私のうまれた国のことを話して下さいました。皆様、この日参加して下さいました。言葉では言い尽くせないエネルギーと感動があり、このようなイベントの大切さを改めて感じることでできた一日でした。

帰路に着く京都の熱風は、何故かとても心地よく感じられました。おそらくここに参加された皆様も同じ思いで帰路につかれたことと思います・・・。

